駿東新聞

皆さん、アザラシ幼稚園をご存知ですか？オランダにあるアザラシ保護施設で、日本人から絶大な人気を誇っているのですが、水面から顔を出して立ち泳ぎしている姿を"茶柱"プールサイドで日向ぼっこしている姿を"のざらし"なんて呼ばれていて、ストレスを抱える日本人が癒されようとアザラシの動画を見ているそうです。想像するだけで可愛い……♡

お盆について

技師 山口

駿東新聞をご覧のみなさまこんにちは、診療放射線技師の山口です。今回のテーマは[お盆]です。

「お盆」は、仏教における「盂蘭盆会(うらぼんえ)」または、「盂蘭盆(うらぼん)」を略した言葉とされています。語源はサンスクリット語の「ウランバーナ(逆さに吊り下げられた苦しみ)」です。

盂蘭盆会は、その昔、お釈迦様のお弟子である目連尊者(もくれんそんじゃ)が、亡き母を救う話に由来しています。目連尊者の母親は、子を溺愛する余り周囲の不幸に無関心だったことが原因で、餓鬼道に落ちてしまいます。餓鬼道に落ちた母親は逆さ吊りにされ、食べるもの飲むもの全てが火となり飢えと渇きに苦しんでいました。神通力を持っていた目連尊者は、苦しむ母親を目にしてお釈迦様に相談したところ「夏の修行を終えた僧侶たちを招き、供物をささげて供養するとよい」という教えを受けます。これに従って供養したところ、その功徳によって母親は極楽往生を遂げたと言われています。

上記は仏教の伝来によって取り入れられた風習ですが、日本各地には古来から夏時期には祖霊を祀る習慣があったとも言われています。しかし、当初は朝廷が営む供養として位置づけられており、実際に民間に普及し始めたのは鎌倉時代に入ってからとされています。その後、室町時代には送り火の風習が現れ、江戸時代に入ると完全に庶民に定着し、僧侶が家々を回ってお経をあげるようになりました。

こうした日本古来の風習と仏教の教えが混ざり合った結果、現在の日本におけるお盆は、家族や一族が集まり、お盆提灯、キュウリ・ナスで作った牛馬など、お盆独自のお飾りをしてご先祖様や故人様を偲び、供養する行事として定着しています。

僕の父は今年新盆になります。新盆もお盆も、故人様を自宅にお迎えして供養するという点では同じですが、新盆は故人様が初めてご自宅に帰って来られる一度きりの機会という点で違いがあります。母や兄弟家族とともに新盆法要を行い偲びたいと思います。

2F メディフィットスント一会員様無料送迎はじめました!!
この機会にぜひ入会をご検討ください!!!